

フォトフェスタ2010「写真甲子園」「東川町国際写真フェスティバル」

にぎわひ会場へ写真の祭典・盛夏のまつりに人出の波

写真の祭典「フォトフェスタ2010」の「第17回写真甲子園」「第26回東川町国際写真フェスティバル」が7月27日から8月1日まで6日間開かれ、同時開催「どんとこい祭」は、7月31日の初日快晴に恵まれ、多くの家族連れが詰め掛けて会場がにぎわいました。

フェスティバルは、前半の7月27日から4日間の「第17回写真甲子園」、後半7月31日、8月1日の2日間の「第26回東川町国際写真フェスティバル」「どんとこい祭り」という構成。

今年の写真甲子園は、初出場11校（うち初応募3校）と本戦出場は初めてという顔ぶれが多くなりました。旭川市内から3年ぶりに出場となった旭川実業高校もそのうちの1校。地元出場校の地の利を生かした作品に仕上げよう、と選手たちは力が入っていました。

3回連続出場の栃木県立栃木工業高校は、出場3人のうちキャプテンの柳澤悠人君が3年連続の大会出場を果たしました。道内勢では、同じく3年連続で出場の帯広南商業高校が3回目の町民特別賞を受賞しました。今年の写真甲子園は、昨年より46校増の377校から作品応募があり（初応募校100校）、過去

最高を更新しました。

「光と影」を表現―南部工業高校が2連覇

優勝は九州・沖縄プロダクト代表、南部工業高校。発表会場の農村環境改善センターに校名が響きました。内間康博、名嘉夏希、金城優季華の3選手は顔を見合わせ、一瞬「キョトン」とした表情。優勝旗を受け取ってようやく2連覇の実感が沸いたよう。

「シャコウ」最高！ ありがとうってこういうこと!? 後輩たちに伝えたい。授賞式を終えた3人は長かった2連覇への道を振り返りました。

「一番難しかったのは、セカンドステージ。水の場面で撮りたいものを撮れるか、飛び込む瞬間、水しぶきとか。光と影が好きなので、マニュアルで露出と絞りを決めて、暗めに撮った」「水と、光と影は自分たちの得意技。それ

を發揮できた」と振り返りました。

後半7月31、8月1の両日は、国際写真フェスティバルとどんとこい祭り。2日目は終日雨模様が悪天候でしたが、初日は快晴に恵まれて家族連れでいっぱい。夜に入って花火大会にも大勢の人が繰り出し、例年にないにぎわいにあふれました。

国際写真フェスティバルは、今年の受賞作家、陳敬賢氏（海外作家賞） 台湾・台北市、北島敬三氏（国内作家賞） 東京、オサム・ジェームス・中川氏（新人作家賞） 米国ブルーミントン市、萩原義弘氏（特別作家賞） 東京、そして飛弾野数右衛門賞（新）を受賞した故小島一郎氏（青森）の親族5人が来町。授賞式に出席しました。受賞



▲歩行者天国（7月31日）



▶写真インデペンデンス展合評の集い（7月31日、文化ギャラリー）

作家作品展会場となった文化ギャラリーの受賞作家フォーラムでは、作品に込めた作者の思いなどを話し合いました。会場ではそのほか、若手の写真家が自らの作品を持ち寄って批評やアドバイスを受けることができ、写真インデペンデンス展、ポートフォリオレビュー、ストリートギャラリーフォトコンテストや、初の室内モデル撮影会、まち撮り撮影会、ポートフォリオレビューツアー、「ユーナナ21・クロッシンガカオス・1999-2009」

10周年記念展など盛りだくさんの催しが行われました。今年の第5回ストリートギャラリーフォトコンテストは、山川泰明さん（23） 室蘭工大4年IIがグランプリ受賞しました。